学問祭2023　今年の推薦図書一覧

「諸学への誘い 2023」の担当講師からの推薦図書 28冊です。
講義会場前に展示もします。手にとってご覧ください。冒頭は著者名、(　)は推薦者名です。

① 仲野 徹
『生命科学者たちのむこうみずな日常と華麗なる研究』
河出書房新社　河出文庫
４０年来の知人である仲野さんの手による、生命科学の「面白さ」を知るのに自信をもってお勧めできる一冊です。皆さんが一歩進んで、取り上げられた生命科学者の伝記の原本を読むことを期待しています。　（渡邊　利雄）

② 岡田 吉美
『遺伝暗号のナゾにいどむ』
岩波書店　岩波ジュニア新書
私が先生とお呼びする唯一の方で、私の卒研の指導教員です。遺伝子の発見から遺伝暗号の解読までの過程を、ご自身の寄与も含めて生き生きと書いています。文系の方でも十分に楽しめる人間ドラマになっています。　（渡邊　利雄）

③ 下山 晴彦編
『よくわかる臨床心理学』
ミネルヴァ書房
臨床心理学の概説書です。カウンセリング、心理療法と臨床心理学はどこが違うのか、人の内面を扱う活動なのに社会との交渉がなぜ必要なのかなど、幅広い視点から臨床心理学について論じられた良書です。　（梅垣　佑介）

④ 山上 敏子
『方法としての行動療法』
金剛出版
支援者を志す人向けの本です。行動療法に基づく問題理解と支援の仕方はもちろん、支援者に求められる態度や姿勢も明瞭に書かれています。エビデンスに基づく支援をクライエントの生活に根差した形で提供するための支援者のバイブルです。　（梅垣　佑介）

⑤ 谷畑 勇夫
『宇宙核物理学入門―元素に刻まれたビッグバンの証拠』
講談社(ブルーバックス)
現代原子核物理学の大きなテーマの１つである、宇宙の歴史における元素合成の研究が紹介されている。初学者にもわかりやすく書かれており、原子核物理学全体に対する入門書としても良書と思う。　（比連崎 悟）

⑥ 秋葉 康之
『クォーク・グルーオン・プラズマの物理―実験室で再現する宇宙の始まり』
共立出版
高エネルギー原子核衝突実験によって、重い原子核から陽子や中性子の中に存在するクォークやグルーオンのプラズマ状態を生成するハドロン・素粒子研究に関する入門書である。専門的な予備知識がなくても理解できるように配慮されている。　（比連崎 悟）

⑦ E.S.モース
『日本その日その日』
講談社学術文庫
大森貝塚の発見者として知られるモースが、２年の日本滞在期間中に残した日記とスケッチです。明治初期の日本人の生活を米人科学者が優れた観察眼でとらえた興味深い一冊であり、日本社会と日本人に対する驚き・敬意・愛情を読み取ることができます。また、随所に挿入されている彼のスケッチも見ものです。グローバル化で大切なことは自分の国の歴史や文化を知るということです。長い間鎖国していた日本の開国直後を垣間見たモースの印象が改めて日本を知ることのきっかけになればと思います。
（後藤　景子）

⑧ 赤祖父 俊一
『正しく知る地球温暖化―誤った温暖化論に惑わされないために―』
誠文堂新光社
地球が温暖化していること、およびその主原因が炭酸ガスであることはすでに「常識」となっていますが、この本はその「常識」に対する地球物理学者の反論です。著者と「常識」のどちらが正しいかはともかくとして、様々な情報を取捨選択し、ロジカルシンキングにより自己の考えを明確にすることが重要であると思います。　（後藤　景子）

⑨ 儀我 美一・儀我 美保
『非線形偏微分方程式―解の漸近挙動と自己相似解』
共立出版
本書では、スケール変換不変性を有する熱方程式および渦度方程式に対して、自己相似解を通じて解の漸近挙動を調べる方法が示される。記述が丁寧であり、「非線形偏微分方程式論」（とその関連分野）を効率的に学習したい方におすすめである。　（高橋　亮）

⑩ ハイム・ブレジス
『関数解析―その理論と応用に向けて』
産業図書
本書は「関数解析」の入門書であり、偏微分方程式論を意識して書かれている。本書はややハードな箇所（行間を埋めなければならない箇所、味のある和訳 etc）があるが、それらを攻略するごとに、解析学の実力や読解力が向上する。
（高橋　亮）

⑪ 三舟 隆之・馬場 基 共編
『古代寺院の食を再現する―西大寺では何を食べていたのか』
吉川弘文館
平城京最後の大寺院ともいわれる西大寺。その一角、食堂院の発掘調査で巨大な井戸が発見されました。発掘調査から古代寺院の驚くべき食生活の様相が明らかになりました。歴史考古学の面白さを知るできる一冊です。　（神野　恵）

⑫ 奈良文化財研究所編
『奈良の都の暮らしぶり―平城京の生活誌』
クバプロ
平城京での人々の暮らしは？ 発掘された考古資料や出土文字資料の分析から平城京の人々の暮らしに迫る一冊です。異分野の研究者がいろいろな角度から奈良時代に切り込むのが歴史考古学の醍醐味を味わってみてください。　（神野　恵）

⑬ デビッド・マー
**『ビジョン
—視覚の計算理論と脳内表現』**
産業図書
脳のはたらきを理論的に研究するアプローチの皮切りになった名著です。AI と脳科学のつながりが読みとれます。
（川人　光男）

⑭ 川人 光男
**『脳の情報を読み解く
—BMI が開く未来』**
日新聞出版
ブレインテックの主要な要素 BMI：ブレインマシンインタフェースに関する入門書です。
（川人　光男）

⑮ 神谷 美恵子
『生きがいについて』
みすず書房
あなたは生きがいをもっていますか。医師としてハンセン病の患者さんと交流し、一人の女性、妻、母として生きた筆者が、苦しむひとや悲しむひとに寄り添って生きようとした思いに、ぜひ触れてみてください。
（小﨑　誠二）

⑯ C.M.ライゲルースほか編
『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』
北大路書房
学習科学の深化や情報技術の進展によって、私たちのコミュニケーションのあり方が急激に変化しています。教育における学習者中心とは何を意味するか。これまでの指導や評価をあらためて問い直すための指南書です。
（小﨑　誠二）

⑰ ダゴベルト・フライ
『比較芸術学』
創文社
人は、感覚所与をシンボル体系として認識する前に体験を経ます。その体験の基盤になる時間と空間の性質は文化の数だけあり、この本は世界の 7 つの文化の時間と空間の性質を述べています。
（藤田　盟児）

⑱ 加藤 周一
『日本文化における時間と空間』
岩波書店
われわれ日本人は、過去も未来もなく、「今」と「ここ」に生きている。文学分析を中心に美術や社会構造から日本文化の、つまり貴方にとっての時間と空間の性質を分析してくれます。
（藤田　盟児）

⑲ 井上 和子編
『日本文法小辞典』
大修館書店
70 年代、日本語研究は明治以来の国語学に基づく研究とチョムスキーが提唱した変形生成文法に基づく研究が融合していきます。その変革の中で、「に」と「で」の違いや数量表現など身近なテーマを扱う読む事典です。
（加藤　久雄）

⑳ ノーム・チョムスキー
**『デカルト派言語学
—合理主義思想の歴史の一章』**
みすず書房
N. Chomsky (1966) *Cartesian Linguistics* の邦訳。氏が提唱した変形生成文法の哲学的源流をデカルトに求めています。言語研究を自らの言語のわがごと化と捉えるための書ではないかと私は考えます。
（加藤　久雄）

㉑ 日本生態学会編
『生態学入門』
東京化学同人
生態学は生物と環境との関係を研究する学問である。生物多様性などの生態学用語が普及しつつある一方、「生態学」という言葉を知らない人は少なくない。生態学は英語で Ecology という。生態学の理解なくして SDGs は語れない。
（小長谷　達郎）

㉒ ピッキオ編著
**『虫のおもしろ私生活
—身近な虫の観察図鑑』**
主婦と生活社
昆虫は地球上でもっとも種数の多い生物である。その生き方は当然種数以上に多く、比較すれば生き方の背景にある法則も浮かび上がってくる。楽しみながら昆虫の生き方に触れる本書には教科書とは異なる学びがある。
（小長谷　達郎）

㉓ 日本景観生態学会編
『景観生態学』
共立出版
まわりの景色が違って見えてくる 1 冊！生態学というと理学部、理科のイメージがありますが、文系・理系の二項対立なんて不要。自然の中で生かされている私たちの未来を、生物多様性や風土を切り口に考えてみよう。
（河本　大地）

㉔ 十津川村史編さん委員会
『十津川村史　地理・自然編』
十津川村
ポップで読みやすい村史。大阪市の 3 倍以上の面積をもつ日本最大の村を知らずして奈良県を語るな…。奈良女の寺岡先生を中心にまとめた地理編では、観光や教育、北海道新十津川町との縁などを担当。自然編も面白い！
（河本　大地）

㉕ オリヴァー・サックス
**『火星の人類学者
—脳神経科医と 7 人の奇妙な患者』**
ハヤカワ書房
神経科医のサックスは、神経疾患患者の多様性を医学の枠を超え、人間の状態の不思議さを哲学的に考察しています。紹介する本はその一つで、障害に内在する創造性と常識や前提にとらわれない彼の思考は、私のデザインの仕事に大きな影響を与えています。（ジュリア・カセム）

㉖ ジュリア・カセム
『「インクルーシブデザイン」という発想 排除しないプロセスのデザイン』
フィルムアート社
Royal College of Art (RCA)の the Helen Hamlyn Centre でインクルーシブデザインの活動後、ユニヴァーサルデザイン優勢の日本で、「デザインとは、何かを締め出すのではなく、包括と共創のための力である」ことを熱く信じる実践者の視点から書いた著書である。
（ジュリア・カセム）

㉗ ユリウス・カエサル
『ガリア戦記』
岩波書店
紀元前 1 世紀、初代ローマ皇帝となったあのカエサルが書いた遠征記録。

淡々とした文章で面白味は少ないが、そこにカエサルの生の声が聞こえる。

歴史が苦手だった私に響いた一冊。
（吉澤　悟）

㉘ 石田 茂作ほか
『天平地寶』
帝室博物館
戦前（昭和 12 年）発行の巨大図録。奈良時代〔天平〕の遺物〔地宝〕：瓦や金銅仏、墓誌、骨壺などを、無駄に大きなモノクロ写真で紹介。奈良博は、この豪壮かつニッチな雰囲気の直系子孫（？）と思われる。
（吉澤　悟）

—メモ欄—